

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和6年9月24日（火）第5校時

荒川区立第四峡田小学校 4年2組32名

授業者 第4学年担任

校内研究のテーマ

自ら課題を見付け、見通しをもって活動する児童の育成

1 単元名

「隅田川復活作戦」（9月～12月）

2 単元の目標

地域の身近な川の環境について調べたり、その保全に向けた学習活動に取り組んだりすることを通して、環境を守る活動が続ける人や組織の意図や願いに気づき、環境保全に関する具体的な取組を考え、地域や校内に発信する方法を考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

3 単元の評価規準

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
①知識及び技能	②思考力・判断力・表現力	③主体的に学習に取り組む態度
ア 隅田川の自然環境の大切さについて理解し、環境を守る活動が続ける人や組織の意図や願いに気付いている。	ア 水に関する身近な事例から川の環境保全に関する課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法の計画を立てている。	ア 自然環境に関わる隅田川に興味・関心をもち、自分自身の生活を見つめ直し、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。
イ 環境保全に関する具体的な取組を捉えるために、目的や相手を意識して情報収集をしている。	イ 隅田川の現状をよりよく理解するために必要な情報を、調査する対象に応じた方法を選びながら収集している。	イ 自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。
ウ 学習対象に関する理解は、環境保全に関する取組を発信するために探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	ウ 隅田川の環境保全に関する取組を進めるために、集めた情報を比較したり関連付けたりして理由や根拠を明らかにし、具体的な取組を決定している。	ウ 自分たちで考えた活動を学校や地域に発信していく活動を通して、社会と関わりながら生活していこうとしている。
	エ 隅田川の環境保全に向けた取組を、表現方法の特徴や表現の目的に合わせて分かりやすくまとめている。	

4 単元について

（1）単元観

本単元は、小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（平成29年7月）第5章第3節に示された「①横断的・総合的な課題」における、「身近な自然環境とそこに起きている環境問題」

を踏まえ、構想したものである。

身近な川である隅田川的环境について調べることで、きれいな水とは何か学び取れると考えた。(具体的な体験・活動内容)を通して、課題の解決に向けて必要な情報収集の方法を考えたり、隅田川的环境保全に関する取組を考え、実践したりしていく。また、調べた情報をどのように発信するかを考え、自らの生活や行動についても考えられる学習にしたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、1学期は「ごみをへらそうプロジェクト」に取り組み、ごみを減らすために自分たちができることを考え、校内に伝える活動を行った。テーマごとに班で活動する際は、必要な情報を共有しながら情報収集したり、友達と役割を分担しながらスライドまとめたりする姿が見られた。隅田川の水をきれいにしようというゴールを明確にすることで、自分から課題を見付け、探究活動に取り組めるようにしていく。

(3) 教材観

本単元は、地域の身近な川的环境について調べたり、その保全に向けた活動に取り組んだりすることを通して、環境を守る活動が続ける人や組織について学び、環境保全に関する具体的な取組を地域や校内に発信するという内容である。地域の水再生センターや出前授業などを通して、実際に働く人の思いや意図を学ぶことで、自分事として課題に向かい、自ら課題を見付けることができる教材だと考える。

5 研究主題に迫るための手立て

視点① 児童が自ら課題を見付けることができる単元計画

- ・昔の隅田川と、現在の隅田川を比べることで、課題を自分事として捉え、自ら課題意識をもたせるようにする。
- ・地域のGTを活用することで、自分事として課題に向かい、自ら課題を見付けられるようにする。

視点② 児童が見通しをもって学習に取り組むための手立て

- ・見学やインタビューの前に、事前に本やインターネットで課題について調べておくことで、見通しをもって活動に取り組めるようにする。
- ・毎時間、学んだことと次に活動することを整理して掲示することで、学びを積み重ね、見通しをもって取り組むことができるようにする。
- ・社会科で学んだことを活用し、教科横断的に指導する。(資質・能力の活用・発揮)

6 4年2組の単元の学習活動計画(全30時間)

児童の実態	・目標に向かって目的意識をもって探究学習に取り組むことができる。 ・目標を達成するために、地域や校内に発信することができる。	・昔と今の隅田川を比べることで、きれいな水とは何か課題意識をもたせる。	きっかけの工夫
単元に向かう思いや願い ●自分たちの力で隅田川の水をきれいにしたい。 ●学校だけでなく、お家の人や地域の人にも実践してもらいたい。			



小単元名(時数)	○主な学習活動	●予想される思考や気付き ◇次の小単元につながる思考や気付き
隅田川の現状の問題点か	【課】隅田川の現状の問題点から課題を考える。[本時]	・どうして川の水は飲めないの？ ・きれいな川の水には、環境が大切。

ら課題を考える。 (5)	【情】「きれいな水とは何か？」を河川の環境や上下水道について、河川や水道に関わる本などから情報収集をする。 【整】課題ごとに集めた情報を整理する。 【ま】課題ごとに整理したことを学校内で発表し、共有する。 (単元名を決める)	・隅田川は、昔は泳げたらしい。 ・川が汚れる原因は生活排水が関係しているらしい。 ☆自分たちにできることをやってみよう。 評価規準 ①ア・②ア・③ア
隅田川の水をきれいにするために、できることをやってみよう。(5)	【課】小単元のまとめ・表現の振り返りから小単元2の課題を設定する。 【情】水をきれいにするための課題から実験や調査活動をする。 【整】実験や調査活動から成果と課題を整理する。 【ま】学級内や河川や水道に関わる専門家などに発表し、共有する。	・生活排水を減らす方法が知りたい。 ・油は捨ててはいけなことが分かった。 ・お家でやってみたけど、忙しい日は難しかった。 ☆もっと簡単に実践できる方法はないかな。 ☆お家以外でできることはないかな。 評価規準①イ②イ・ウ③ア
もっと隅田川をきれいにする方法を知ろう！ (10)	【課】課題別ごとにGTからアドバイスいただいたことを生かし、自分たちが隅田川をきれいにするためにできることを再度、課題設定する。 【情】自分たちが再度、考えた水をきれいにする方法について、GTに伝え、アドバイスをもらい、課題に取り組む。 【整】課題に取り組んだことから、水をきれいにする効果的な方法について分析する。 【ま】自分たちで取り組んできたことが自然環境のためによりよい学習であることを自覚する。	・川の周りの環境を整えることが大切だと分かった。 ・家でできることもあることが分かった。 ・GTに話を聞けて、水をきれいにする方法について初めて知ることがあった。 ☆四峡のみんなやお家の人は知っているのかな。 ☆調べたり聞いたりしたことを、分かりやすくまとめて発信したいな。 評価規準 ①ア、イ・②イ
隅田川をきれいにする方法を発信しよう！ (10)	【課】自分たちが取り組んできたことを「誰に」「どのように」伝えると、より効果的なのか課題を設定する。 【情】効果的な方法になっているか、GTからアドバイスをいただく。 【整】アドバイスをいただいたことから、自分たちの取り組みがよりよく伝わるようにする。 【ま】校内や地域の人たちなどに自分たちが取り組んできた水をきれいにする効果的な方法を伝える。	・何について発表しようかな。 ・四峡小のみんなや地域の人に発信できた。 ・どれくらい伝わったのか知りたい。 ☆どのように発信したら、四峡小や地域の人に伝わるかな。 評価規準 ①ウ・②ウ、エ・③ウ



単元の終わりまでに育ってほしい姿	・水をきれいにするためにできることを、校内や地域に発信することができる。 ・学んだことを生活の中で実践することができる。
--------------------------------	--

7 本時の活動計画（1／30）

（1）本時の目標

隅田川の自然環境をよりよくする活動を通して、川の現状の問題点から課題を考え、友達と意見を共有しながら様々な課題を知り、自分の意思で探究活動に取り組もうとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

（2）本時の展開

○児童の主な学習活動 分 ・予想される児童の思いや考え	□教師の支援 ☆評価規準（対象）【観点】
○川や水の問題となる現状を提示する。5 ・川の水をそのまま飲むと体調が悪くなってしまう。 ・川の近くに住んでいる生き物が減っている。 ・昔は川遊びができるほどきれいだった。 ・生活排水がそのまま川に流れている。 ○学習の流れを確認する。2	□ニュースや統計資料など、新しい情報を提示することで、自分事として課題を実感できるようにする。
隅田川をよりよくするために自分たちにできることを考えよう。	
○グループで問題に対して、自分たちにできることを共有する。10 ・川や街にゴミを捨てない。 ・ゴミ拾いをする。 ○全体でできることを共有する。15	□短冊に書いて、黒板に掲示することで、次時に学級全体でまとめる際にグループ化しやすくする。 ☆川の自然環境に興味・関心をもち、自分の意志で探究活動に取り組もうとしている。（観察） 【主体的に学習に取り組む態度】 □多様な意見を発表させ、実際にやってみたいという意欲をもたせたり、どのようにしたらできるかという次時への見通しをもたせたりする。
○本時のまとめを行い、次時への見通しをもつ。5 ・川の水の問題から自分たちにできることをたくさん考えることができた。 ・次は実際にできるかどうか確かめたい。 ○本時の振り返りする。5 ・川の水をきれいにするためにみんなでできることを考えたい。	□今日学んだことと、次に行う活動内容を整理する。 □気付いたことや学んだこと、次時に向けての自分の考えなどを書くよう声を掛ける。

8 グループ協議、協議会記録

A:最初の資料が写真やグラフなど様々な種類の資料があり、児童も興味をもって見ていたので、効果的だったと思う。ただ、隅田川に関する資料ではないものもあったので児童が誤解をしてしまうのではないかと。児童はとても考えて、意見をたくさん短冊に書いていた。

B:今日は問題点から課題と思われることについて話し合い、原因について仮説を立てて、次時につなげる時間でもよかったのではないかと。隅田川の現在の状況、問題になっていることを児童の言葉で話し合う時間があると、できることも考えやすかったのかな。短冊の貼り方を工夫したほうがわかりやすいように感じた。

C:資料が具体的でわかりやすく、児童の興味をひいていた。短冊に書く際、社会や理科での学習を思い出しながら書き込んでいた。

D:もっと「自分たちのできる」から、「自分たちがやりたい」までつなげたい。

○講師講評（講師：國學院大學 人間開発学部 初等教育学科 准教授 三田 大樹 先生）

<指導内容>

視点1 児童が自ら課題を見付ける事ができる単元計画 について

- ・昔と今の隅田川の比較を通して。
- ・GTの活用。

視点2 児童が見通しをもって学習に取り組むことができたかについて。

<協議会の内容からグループディスカッション>

- ・資料の扱いで読み込みが少なかった。という意見について
→資料やグラフをもっと読み取る時間があれば良かったのではないかと。
- ・資料がフィットしていたか。資料が適切であったか。について
- ・「やりとりはキャッチボール」子供が資料から教師のボールを受け取ることができたか。
→授業のはじめに行ったことで、児童が資料を受け取る体力があった。
- ・資料を提示してどんなやり取りがあったら良かったか。どんな発問をするか？
→資料を提示して「なぜこうなったと思う？」と考えさせる。
→このように丁寧な発問をクリアにしていく。
- ・「何ができるか」という発問を投げかけた場面について。
→短冊だらけになってしまうと、見にくくなってしまう、児童が読み取ることを諦めてしまう。
また、児童の意欲が下がってしまう。
- ・上記の問題点の改善策を考える
→個人で考える→グループで考える→全体で共有する。というプロセスを経ることが大事である。
→「できる」だと知識を出すだけのものになる。そうではなく「やりたい」と思えるように導いていくことが大切である。

- ・自分ごとになるために

①身近な環境の活用

②活動のつながりと問題意識のつながり

③ゴールイメージの明確化

この3つの視点を考えていくことが大切である。

- ・資料提示→共感→自分事→見通し の流れを大切にする。
- ・共感：同じ川という言葉にも児童によって捉え方が違う。友達と話をする活動を通して話が広がり自分事として考えることができる。
- ・最初に全部を全部投げ込んでも児童はついていけない。適切な資料、適切な課題提示が子供たちの意欲を引き出す。

9 成果と課題

<成果>

- ・導入で写真やグラフなど様々な種類を用意することで、児童が興味をもつ資料提示になった。
- ・児童が理科や社会で学んだことを活用して考えられていた。

<課題>

- ・隅田川の現状から問題点を話し合い、その後に解決方法を考えられるとよかった。
- ・黒板に掲示する短冊が煩雑にならないように、児童が書いた短冊を、個人→グループ→全体の順番で整理していくとよい。
- ・児童が自分事として捉えるために、身近な環境やGTを活用するとよい。
- ・児童が見通しをもって取り組むために、発問を明確にして、やりたいと思えるゴールを設定へ導くことが大切である。